

件 名

令和4年度埼玉県公立高等学校入学者選抜の結果分析について

提出理由

令和4年度埼玉県公立高等学校入学者選抜の結果分析について、別紙のとおり報告します。

概 要

- 1 目的
- 2 分析方法
- 3 平均点の推移
- 4 分析内容
- 5 分析のまとめ
- 6 令和5年度入試の問題作成に向けて

令和4年度埼玉県公立高等学校入学者選抜の結果分析

1 目的

令和4年度埼玉県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果分析に基づいて、受検者の学力及び学習の状況について診断を行うとともに、特に誤答を分析することにより、今後の学力検査問題の作成についての参考資料を得ようとするものである。

2 分析方法

令和4年度埼玉県公立高等学校入学者選抜学力検査を受検した全日制39,805名、定時制1,007名の計40,812名の母集団の中から、答案を抽出し標本とした。

3 平均点の推移

過去5年間の、全受検者（全日制）の平均点を一覧にした。各教科50点～60点を予想平均点としているが、令和4年度入試では、数学と選択数学において、想定を下回る平均点となった。

年度	学力検査問題					学校選択問題	
	国語	社会	数学	理科	英語	数学	英語
令和4年度	62.9	52.9	48.0	52.5	52.6	42.6	58.3
令和3年度	68.7	62.6	62.2	56.2	51.4	56.0	61.6
令和2年度	57.2	55.4	67.9	51.1	52.2	55.2	58.9
平成31年度	58.3	60.3	42.3	44.5	47.7	53.5	64.3
平成30年度	52.8	55.9	44.0	51.7	55.9	43.7	58.9

4 分析内容

(1) 標準偏差

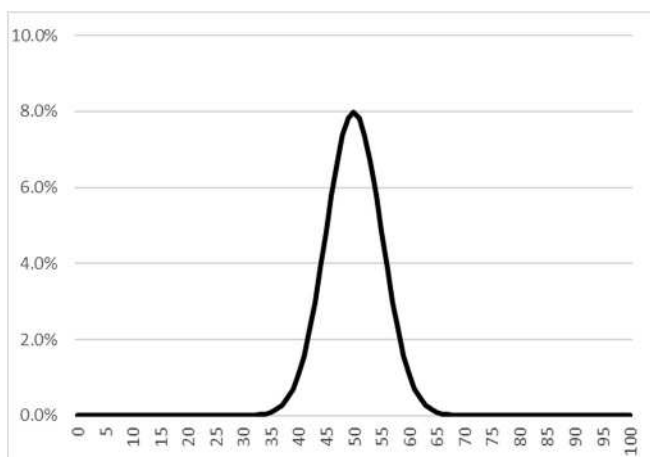
過去2年間の標準偏差（散らばり具合）を比較した。

年 度	学力検査問題					学校選択問題	
	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	数 学	英 語
令和4年度	19.19	22.55	21.24	21.20	22.60	13.58	14.34
令和3年度	21.99	22.48	20.91	20.80	23.36	13.41	13.20

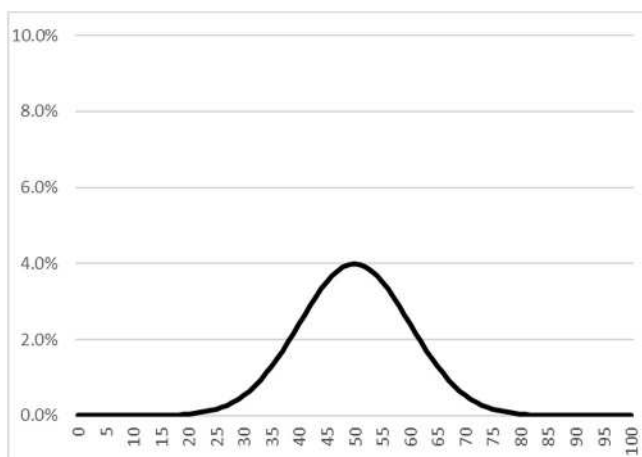
○令和3年度入試と比べ、令和4年度入試の標準偏差はほぼ同数である。これは、平均点は下がった教科が多かったものの、得点の分布としては昨年度同様の散らばりであることを表している。

例 平均50点の正規分布のグラフにおける標準偏差

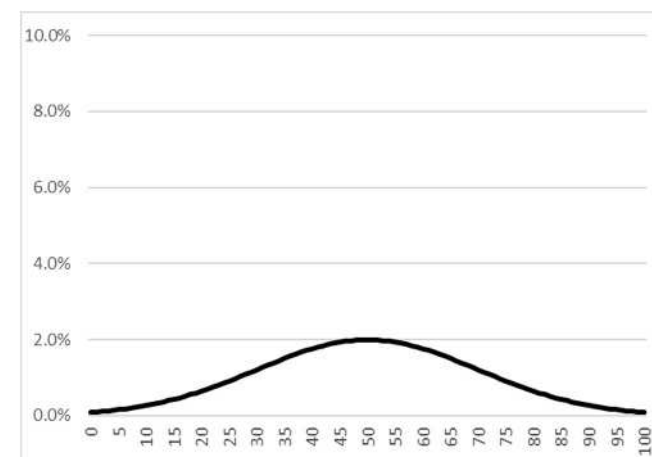
【標準偏差 5】



【標準偏差 10】

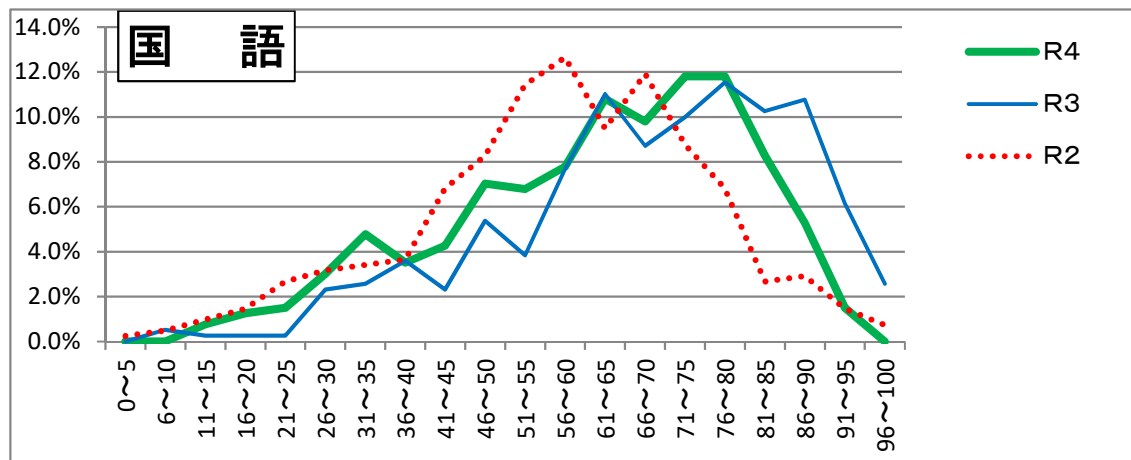


【標準偏差 20】

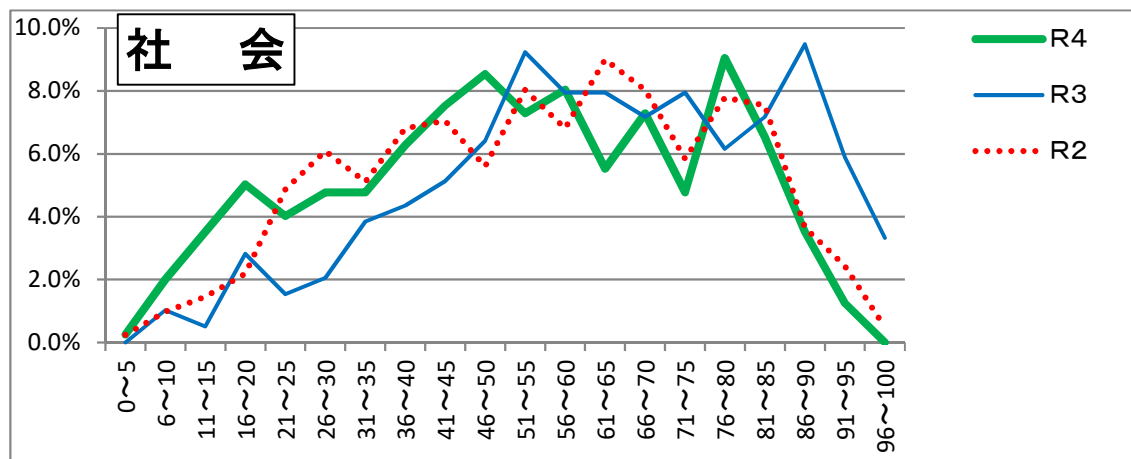


(2) 教科別得点分布

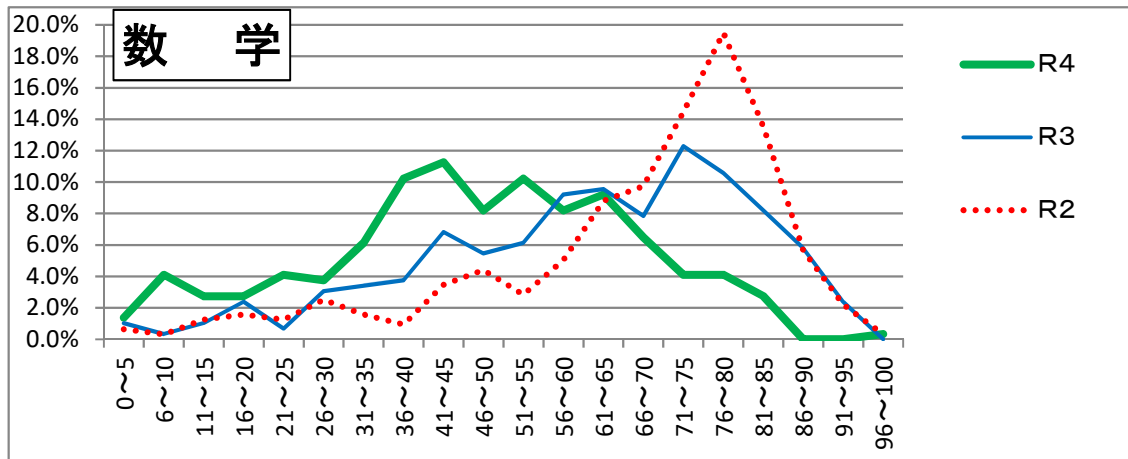
各教科における過去3年間の得点分布を比較した。令和4年度の各教科の分析は以下のとおりである。



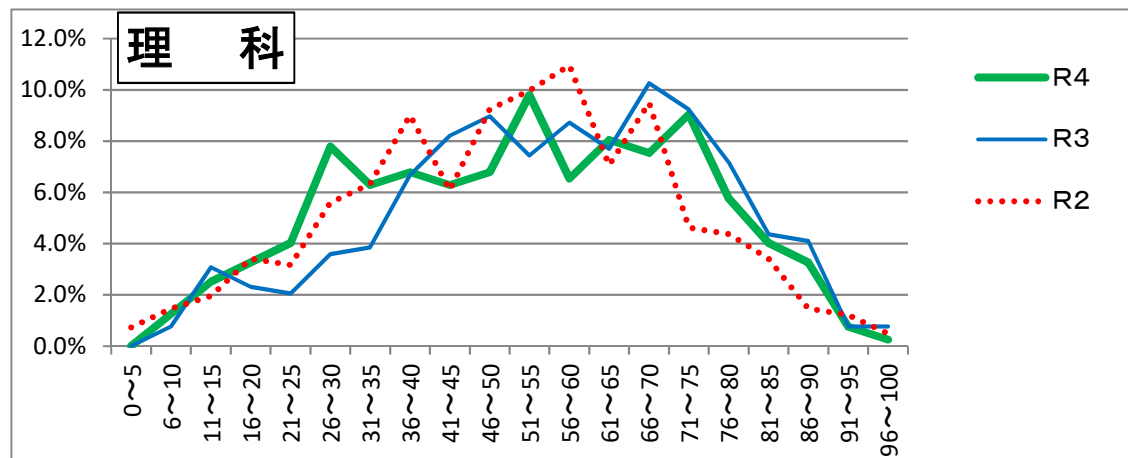
- 令和2年度入試の山と令和3年度入試の山の間に令和4年度入試の山がある。



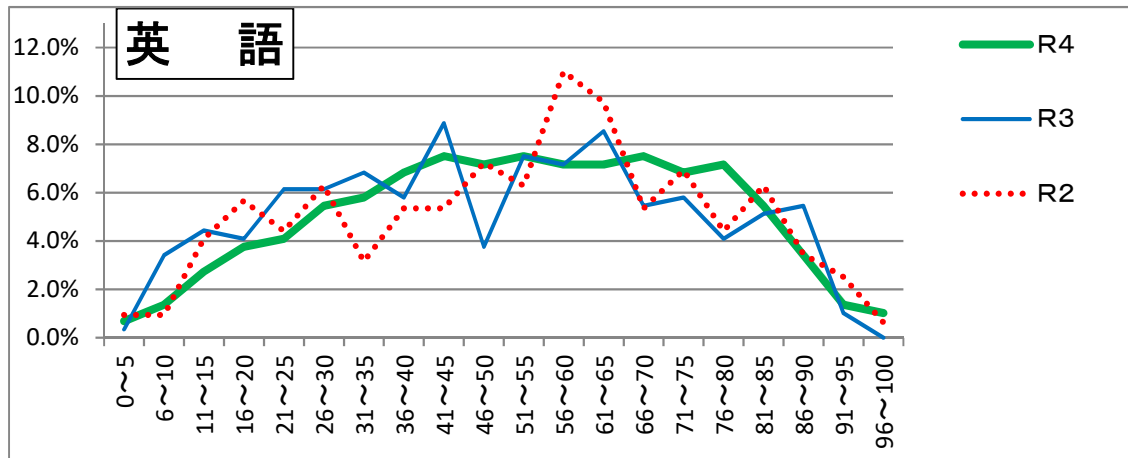
- 令和2年度入試、令和3年度入試と同様、広い分布となっている。
- 50点以下の層が厚くなった。



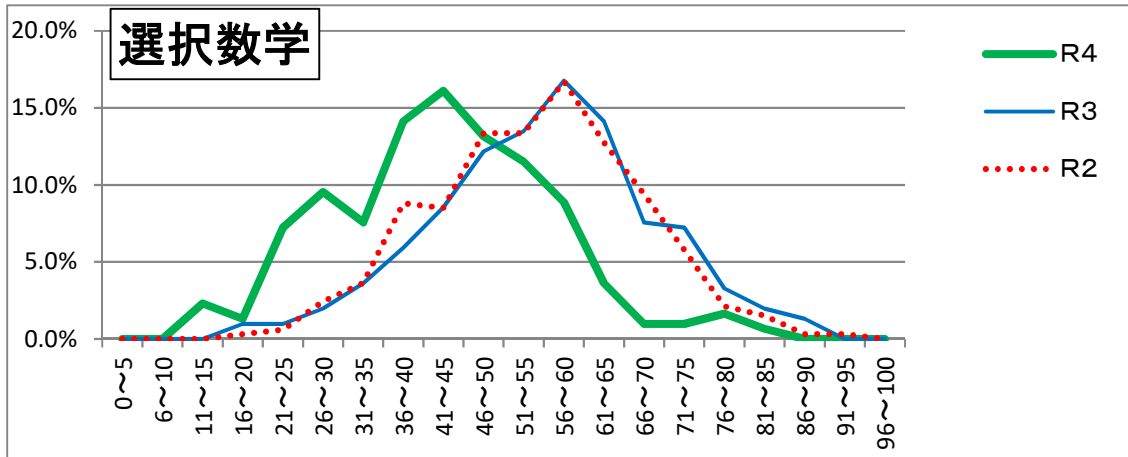
- 令和2年度入試のような高い山はなく、令和3年度入試と比べて左にずれた形をしている。
- 30点以下の層が厚くなった。
- 30点から50点の層に山があり、70点以上の層が薄くなった。



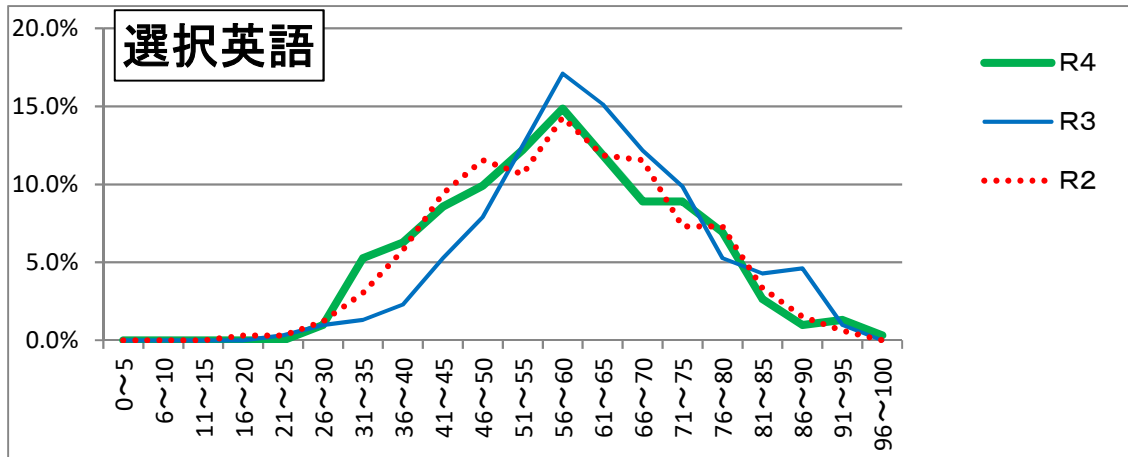
- 令和2年度入試、令和3年度入試と同様、広い分布となっている。
- 30点付近の層が厚くなった。



- 令和2年度入試、令和3年度入試ほどの凹凸がなくなった。
- どの得点層にも、広く分布している。



- 令和2年度入試、令和3年度入試と比べて、山が左に大きくずれた形をしている。
- 70点以上の層が薄くなった。



- 令和2年度入試、令和3年度入試と同様の傾向がみられる。
- 30点以下の層は、ほとんどいない。

(3) 教科別分析

各教科の問題に対する正答率等を分析した。

併せて、全ての教科において、「主に知識・技能をみる問題」と「主に思考力・判断力・表現力等をみる問題」に分類し、それぞれの正答率等の平均を分析した。

- 全ての教科において、正答率の低い問題があり、特に数学においては、正答率1%を下回る著しく低い問題がみられた。
- 「主に知識・技能をみる問題」の正答率の平均は、全ての教科において約45%から約70%とおおむね高かった。
- 「主に思考力・判断力・表現力等をみる問題」の正答率の平均は、国語や英語、選択英語においては約50%とおおむね高かったが、社会や数学、選択数学、理科においては40%以下と低い結果となった。
- 令和3年度入試と比べて、「主に思考力・判断力・表現力等をみる問題」の正答率の平均が低くなっており、各教科の平均点が低くなった要因の一つと考えられる。

思考力・判断力・表現力等を見る問題の例 1

社会 大問 6 問 2 【正答率：16.7%】

問 2 カードⅡに関連して、次のア～エは日本の土地制度に関して述べた文です。年代の古い順に並べかえ、その順に記号で書きなさい。(3点)

ア 全国の土地の面積を調査して、地価を定め、地券を発行して、土地の所有権を認めた。

イ 新たに開墾した土地であれば、開墾した者が永久に所有することを認める墾田永年私財法が定められた。

ウ 武士の社会で行われていた慣習に基づいて、20年以上継続してその土地を実際に支配していれば、その者の土地の所有を認める法律が初めて定められた。

エ 荘園の領主である公家や寺社などがもっていた複雑な土地の権利が否定され、直接耕作する農民に土地の所有権が認められた。

- ・ キーワードは、選択肢イの「墾田永年私財法」のみである。
- ・ 選択肢ア、ウ、エには、あえてキーワードを入れておらず、述べた文から時代の特色を捉えることで、思考力・判断力をみる新傾向の問題である。

思考力・判断力・表現力等を見る問題の例2

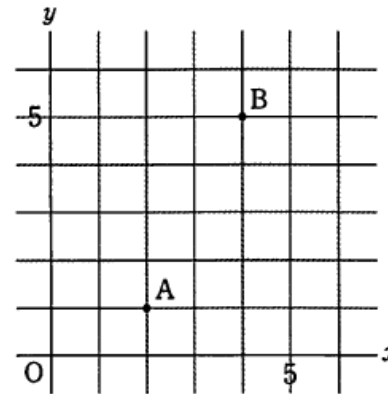
数学 大問3 (3) 【正答率：0.7%】

先生「次の設定を使って、確率の問題をつくってみましょう。」

設定

座標平面上に2点A(2, 1), B(4, 5)があります。
1から6までの目が出る1つのさいころを2回投げ、1回目に出た目の数を s 、2回目に出た目の数を t とすると、座標が (s, t) である点をPとします。

ただし、さいころはどの目が出ることも同様に確からしいものとし、座標軸の単位の長さを1cmとします。



【Eさんがつくった問題】

3点A, B, Pを結んでできる図形が三角形になる場合のうち、 $\triangle ABP$ の面積が 4 cm^2 以上になる確率を求めなさい。

(3) 【Eさんがつくった問題】について、 $\triangle ABP$ の面積が 4 cm^2 以上になる確率を、途中の説明も書いて求めなさい。その際、解答用紙の図を用いて説明してもよいものとします。(6点)

- ・関数、図形、確率といった複数の単元を組み合わせた問題である。
- ・(1)の単元は関数、(2)の単元は図形・確率であり、(3)はそれらをヒントに解く問題であったが、そのことに気付くことができなかつた受検生が多かつた。

5 分析のまとめ

- 「主に知識・技能をみる問題」の正答率はおおむね高く、中学校段階の基礎学力はおおむね定着していると考えられる。
- 「主に思考力・判断力・表現力等をみる問題」においては、新傾向の問題や既存の知識・技能を活用する問題等の正答率が低い傾向にある。
- 想定より平均点の低くなった数学、選択数学だけでなく、他教科においても著しく正答率の低い問題があったことから、引き続き研究が必要である。

6 令和5年度入試の問題作成に向けて

- 今後も「主に知識・技能をみる問題」と「主に思考力・判断力・表現力等をみる問題」をバランスよく出題することに配慮する。その上で、本分析を踏まえ、受検生が最後まで力を発揮し、取り組めるような問題作成に努めていく。